

【収入保険】私の選択・加入者の声



「保険料や補償の幅が魅力」

【長野県佐久市 茂木 泰治さん（68）】

佐久市中佐都地区の茂木泰治さん（68）は、果樹専門農家としてリンゴ100アール、モモ20アールの他、水稻32アールを栽培している。茂木さん方で経営の中心が果樹になったのは祖父の時代だという。それまで水稻と養蚕を営んでいたが、減反政策時にリンゴの団地化が始まり、移行した。

茂木さんが果樹共済に加入したのは、凍霜害で被害に遭った際にJA果樹部会に勧められたこと。それ以来、40年前から加入してきた。「加入していることで心の安定も得られて、より一層農業に打ち込めた」と話す。

祖父から伊勢湾台風のことなど、さまざまな災害について聞かされ、自然災害の恐ろしさを知ったという茂木さん。自身も果樹共済に助けられてきたが、加入していた特定危険方式が今後なくなることから、収入保険への切り替えを検討し始めた。

加入の決め手となったのは、納める掛金などの額や、他の作物も補償される点に魅力を感じたこと。また、以前から青色申告をしていた点も要因になったという。「今までは品目ごとに共済を掛け、共済金が支払われてきたが、**収入保険は収入の減収時の対応**なのでこれからどうなるか、大いに期待したい」と話す。

「今あるものを大事にし、農業規模を維持したい。2人の息子に農業を託すことを目標に、その日まで夫婦二人三脚で頑張りたい」と話してくれた。

（農業共済新聞 [長野県版] 2019年4月2週号より）